

令和5年度 学校経営シラバス

北海道札幌白陵高等学校

令和5年4月6日

めざす学校像	スクールミッション
学校教育目標 1 感謝の心を持ち、社会に貢献する人間の育成 2 自ら進んで視野を広め、知性を磨く人間の育成 3 心身を鍛え、たくましく生きる人間の育成	1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 2 中学校教育との接続を踏まえた基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得により、多様な進路の選択及び決定を図る生徒の育成 3 併設する札幌養護学校白桜高等学園や地域との連携事業を通して、多様性を尊重し、共生社会の一員として他者と協働できる生徒の育成 4 「社会人基礎力」を育む教育の推進

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教育活動	統括	◎校務を円滑に推進する連携体制をつくる ◎情報連携を進める	(1) 職員定数の減少に対応し、業務の整理を行うとともに、行事の適切な運営を行う。 (2) 保護者との連携を深めるため、三者懇談等の機会を増やすなど、情報の提供に努める。 (3) 学校説明会の新たな実施形態を検討し、中学生や保護者への情報提供に努める。 (4) 奨学金の手続きについて、保護者への情報提供の方法を工夫し、業務を円滑に進める。	□教育活動のねらいを達成しつつ、無理のない運営体制をつくれたか □保護者アンケートなどで連携の成果が見られたか □参加後の意見収集でニーズの充足が見られたか □業務の進捗や保護者からの問合せ内容から判断して、情報提供の効果が見られたか
	学習指導	◎考えて判断する力を養う学習活動の構築 ◎生徒が生き生きと学ぶ雰囲気醸成	(1) 学ぶ目的を生徒に実感させる学びの在り方を検討する。 (2) 生徒の学ぶ意欲を喚起する授業改善を行う。 (3) 「学び直し」の在り方を再構築する。 (4) 端末を使った学習方法について研修を推進する。 (5) シラバスの活用を進め、生徒の学習を後押しする。 (6) 学習評価の転換を引き続き進め、授業から単位認定までの流れを構築する。	□生徒が学習に向かう姿勢は前進したか □授業評価の結果分析から意欲の高まりが見られたか □本校の「学び直し」を共通理解することができたか □研修の結果、端末の活用が活発になったか □学習評価の方法をシラバスに明記し、生徒に説明したか □学習評価が、授業方法や単位認定と適合したか
	生徒指導	◎生徒が安心して学校生活を送れる集団づくり ◎自他を尊重する雰囲気醸成	(1) きまりを守る意義を考えさせ、自ら基本的な生活習慣、学習習慣をつくる姿勢を身につけさせる。 (2) SNSの使い方を指導し、問題行動を未然防止する体制をつくる。 (3) 生徒指導部と各年次の連携を深め、統一した指導体制をつくる。 (4) 生徒会活動や部活動を活性化するための下地をつくる。	□きまりについて生徒に考えさせることができたか □SNSの使い方について生徒に考えさせることができたか □全年次での統一した指導は前進したか □生徒会行事や部活動の活性化は前進したか

領域	対 象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教育活動	キャリア教育	◎自分のキャリア形成をデザインする力の育成 ◎年次・教科・他分掌と連携した指導の実現	(1) 企業見学やオープンキャンパスに参加させ、早めに進路活動を開始させる。 (2) 1・2年次で働くことを意識させるプログラムを実施する。 (3) 就職希望者がチームとして取り組めるよう指導する。 (4) 総合型選抜、学校推薦選抜での進学を希望する生徒が夏季休業中から取り組めるよう指導する。 (5) 一般入試での進学を希望する生徒に、模試結果を活用した指導を行う。	☐ 生徒の活動が早期に開始できたか ☐ 生徒が働くことを意識するようになったか ☐ 就職希望者に仲間意識が醸成できたか ☐ 夏季休業中に課題や練習を開始できたか ☐ 模試結果を活用できたか
	健康・安全教育	◎支援を必要とする生徒への組織的対応 ◎自他を尊重する姿勢を育む活動の推進	(1) 年次や養護教諭との情報連携、行動連携に努める。 (2) 個々の生徒に適切な支援が行えるよう外部との連携を図る。 (3) 心理検査の結果を活用する検討会を各年次で実施し、生徒理解に役立てる。 (4) 「命を考える教育」を、保護者の協力を得ながら進める。 (5) 救急救命講習会を実施する。	☐ 校内の連携は前進したか ☐ 専門機関の支援が必要な生徒に支援の手が届いたか ☐ 心理検査結果を共有することができたか ☐ 「命を考える教育」の取組が保護者にも広がったか ☐ 生徒が救急救命講習に前向きに参加できたか

領域	対 象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
学校運営	信頼される学校づくり	◎教育の成果を保護者・地域と共有できる学校づくり ◎組織的な学校改善の定着	○保護者・地域・中学生へ、教育の成果を積極的に情報提供する。 ○学校評価を活用した学校改善を定着させる。	☐ 生徒、保護者に情報が届いたか ☐ 中学生とその保護者に情報が届いたか ☐ 授業評価、教職員の自己評価、各分掌・年次の評価、学校関係者評価が目標に照らして行われたか ☐ 評価や課題整理、改善方策が組織的に明らかにされ、共有できたか
	組織の活性化	◎円滑な協働体制の維持	○年間の目標を具体的にし、評価の観点を明らかにする。 ○校務を効率化し、働きやすい勤務環境にする。	☐ 方針、計画、評価、改善を一体化できたか ☐ 超過勤務時間や、部活動指導時間の上限を遵守できたか ☐ 校務効率化の実感はあるか
	教職員の資質向上	◎研修体制の構築 ◎服務規律の保持	○校内研修を計画的に実施する。 ○教職員個々の目標管理を推進する。 ○服務規律を厳守する意識を維持する。	☐ 研修は計画的に行えたか ☐ 研修テーマは課題に即したものであったか ☐ ライフステージに応じた自己研修を行えたか ☐ 学校の信頼を維持する意識を保てたか